

平成 29 年 8 月 26 日（土） 15:30～17:00

会場 熊本県民交流館パレア第 1 会議室

立命館大学校友会九州ブロック会議・RFS 会議 議事録（要旨）

■ 主催県会長挨拶：熊本県校友会会長 隈部 幸一

■ 立命館大学校友会会長挨拶：村上 健治 氏

■ 福島県校友会 挨拶：福島県校友会 幹事長 馬場 幸蔵 氏

2018 年のオール立命館校友会のご案内で岩手・宮城・福島の校友会メンバーが全国行脚中。

1,000 名を目指し準備を進めているので、ご協力願いたい。

■ 東明館学園 前田事務局長

（※他参加者自己紹介省略）

【九州・沖縄ブロック 会長・RFS・RFS リーダーズ会議】

■ 未来人財育成基金募集推進特別委員会委員長挨拶 林 幸雄 氏

■ 議 事

1. 校友会未来人財育成基金募集の進捗状況と活用プランについて（本部事務局）

本部事務局・船尾氏（校友・父母課課長補佐）

別紙 2「校友会未来人財育成基金募集の進捗と活用プランについて」の内容を説明。

なお、校友会役員が審査に参加することが職員にとっても新鮮であった。

福元氏（校友会副会長）

成長支援の選考をした。学生が目的意識を持って取り組んでいた。

初村氏（北九州校友会幹事長・RFSR）

今の学生は真面目である。これからもぜひ続けていきたい。

※未来人財の支援を受けた学生から活動報告（熊本県出身：戸上 雄揮 氏 【法学部 2 回生】）

成長支援で採択。所属団体は「くまだす+R」、「くまもと若者会議」、「そよ風届け隊」

熊本地震に関わるボランティア活動を進めていく中で、熊本と関西をつなぐ、熊本に関わる学生を増やすことを目的として「くまだす+R」を設立。学園祭で模擬店や展示を実施。生協食堂との連携でだご汁などを提供する「くまもと応援フェア」を実施した。

第 1 回「くまもと若者会議」の目的は「自分のやりたいことに対して歩み続ける“きっかけ”の場を作ること」として、2016 年に南小国町で開催。本年度の第 2 回「くまもと若者会議」の開催が、未来人財育成奨学金に採択された。平成 29 年 10 月 21 日、22 日に南小国町で開催。

世界を熊本へ、熊本を世界へ。

2. 九州ブロック各県の実績と取組状況について

(2016年11月～2017年7月の実績を踏まえて各県より報告)

福岡 (森下会長)	11月に福岡県の校友会がある。若手の集まりや筑豊・糸島などの分会で集まる機会があるため、名簿の整理をしている。パワーある先輩方へのお願いを含めて進めていきたい。
北九州 (藤田会長)	北九州市は5市合併のため、旧市単位の各分会に活動を進めてもらっている。
佐賀 (尾石副会長)	表立っての活動がない中で進めているが、なかなか成果は上がらない。支援の証となるピンバッジが誇りを持つきっかけとなった校友もいる。
大分 (直野会長)	当面の目標として総額100万円を目指す。
長崎 (馬場 RFS)	長崎県校友会総会で基金を募る形を取ったところ、若手の参加が減った。年長者への個別依頼と9月に若手の会にて依頼を進めていく予定。
宮崎 (橋口会長)	宮崎はまだ金額が少ない。一人ずつに個別のお願いを進めていく。継続月額500円は可能なのか。継続で15人まで進めたい。
鹿児島 (前迫会長)	鹿児島では福元副会長の顔もあり、地域会単位で役員が出かけて個別のお願いをしている。総会で数字を上げるのは難しい。役員がふた回り目に入った。
沖縄 (島袋代表幹事)	幹事から進めている。年1回の総会で声かけをしていきたい。
熊本 (飯田事務局長)	継続を12名から5名増やしたが、目標は30名で進める。個別に働きかけを行いたい。

3. 今後の取組みに向けた意見交換

次回のブロック (RFS) 会議までの各校友会における目標設定は以下の通り。

福岡	21名 (+14)
北九州	17名 (+5)
佐賀	10名 (+6)
長崎	10名 (+5)
熊本	30名 (+18)
大分	6名 (+3)
宮崎	15名 (+14)
鹿児島	60名 (+5)
沖縄	4名 (+2)
(合計)	173名 (+72)

4. 未来人財育成基金募集推進特別委員会担当副会長挨拶 福元 寅典 氏

人口減少の中で立命館大学を支えていくためにも、意識の高い学生の支援をよろしくお願ひしたい。

【九州ブロック会議】

■ 議事

1. ブロック会議の2018年度（佐賀県）、2019年度（長崎県）の開催県について：北九州校友会
長崎は離島が多く2年に1回しかないため、校友会100周年・長崎の60周年・ブロック会議を2019年に実施したい。佐賀が2018年に開催することで長崎と入れ替えが了承された。
2. 父母会との連帯のあり方について：長崎県校友会
熊本県の校友会による就職支援のような形を進めたいが、なかなか進まない。
他の県の事例を伺いたい。
熊本では7年前より就職支援を開催しており、父母の参加が多い。
校友・父母課の全面協力により参加を募っている。
熊本の場合は職域で会員確保が続いている。説明会を聞いた学生がプレゼンターになる好循環もある。
3. 全国校友会設立100周年に向けての各県の取組み：長崎県校友会
福岡県も100周年の際には70周年になるため、何か検討していきたい。
北九州では100周年の三角タペストリーで写真撮影をしている。
4. 北部九州、南部九州等と分け、県境をまたいだ若手校友による活動の場を設けては：大分県校友会
大分では宇佐市で歴史探訪の旅を計画している。
宮崎ではAPU訪問を検討しているので、交流できればと考えている。
5. 校友会活動が活発になる中で事務局の負担が大きい。アウトソーシング（有料）以外で知恵を貸してほしい：宮崎県校友会
個別に助言をいただく。
6. 校友情報の提供について、前年4月以降の変更点がわかるようにできないか：鹿児島県校友会
事務局と調整する。
7. 2018年度の女子会の開催について：熊本県校友会
2017年は福岡県柳川で実施した。2018年の進め方を懇親会で意見を伺う。

以上